

## グループ発表「子どもが参加したくなるまちづくりって？」

### 1グループ

最初に、子どもに聞くべき。順番が逆。

土壌作りをしないといけない。短期では無理。長期で考えなければいけない。

市職員のまちづくりの例示とここで考えたまちづくりはずいぶんギャップがある。ワークショップに市職員も入るべき。

### 2グループ

子どもの参加を議論するにあたり、教育問題や学校の態度など、幅広い分野に話が及んだ。

### 3グループ

子を持つ親や子どもに聞くべき。今日のメンバーでは一般的なことしか出てこない。

親や子ども会の活動はどうなっているか？そこへ入っていきたいという活動がないといけない。そのような活動でないと子どもは興味を持たない。

上から目線では子どもは動かない。ガキ大将がリーダーシップをとって遊んでいたような雰囲気を作るには、子どもの意見を聴かなければならない。

### 4グループ

まずは大人が変わらなければいけない。

大人がセミナーに参加するとか、町内会・子ども会に参加する、家庭でまちづくりについて話す、こういうことを大人が率先してやっていかなければ、子どもはついてこない。

### 5グループ

子どもはまちづくりを知らない。知るための土台づくりを、という視点で話し合った。

まちづくりは何かを知ってもらうことから始めるべき。

子ども自身が参加する行事も親の世代が参加する行事もまちづくりにつながっていくことを、子どもよりもまず、親に興味を持たせるようなきっかけづくりをしていかなければならない。

30代・40代の人（子育て世代）が町内会での情報交換ができるようにすることが大切。

子ども目線で地域づくりを考えることが大切。

まちをよくしたいという気持ちを持たせるために、親用・子ども用の出前講座を実施する。（親子で共通の話題）

中学生も一緒に参加して、このようなワークショップを。三世代が参加して「一宮をよくするにはどうしたらよいか」のディスカッションの場を企画してほしい。